

第 8 回ワーキンググループ（平成 27 年 12 月 2 日）・  
臨床研修部会（平成 27 年 12 月 24 日）におけるご意見・ご議論より

※「ご議論いただきたい事項(第 8 回ワーキンググループ資料)」に関連するご意見等より事務局にて抜粋

1. 新たな到達目標案の構造等について

- プロフェッショナリズムをその他の資質・能力とは別に、「医師としての基本的価値観」と位置づけることについて
- 「遂行可能業務」の考え方を取り入れることについて 等

- 基本的価値観と倫理観をはじめとする資質・能力とに重複があるのではないか。
- 基本的価値観や資質・能力の項目の順番について、医師個人に係る事項と社会に係る事項の流れを考慮すべきではないか。
- 遂行可能業務については、研修修了時に単独で実施することが可能となるべき業務を挙げてはどうか。
- 遂行可能業務と資質・能力は、縦軸と横軸の関係になるのではないか。
- 遂行可能業務は、実施にあたり様々な資質・能力が必要となるものとしてはどうか。
- 遂行可能業務の呼称の案：「依託可能業務」「実施可能業務」

2. 現在の経験目標の扱いについて

- 経験目標の一部を、研修する診療科とあわせて「方略」として整理することについて 等

- 診察法・検査・手技の一部については、資質・能力や遂行可能業務に組み込めるのではないか。一方、症候・病態・疾患については、より適当な内容のレポート等、適切な評価が可能であるべきではないか。
- 現在経験目標となっている疾患群については、ある程度の提示がないと、幅広い研修を経験するためのプログラム作成に支障が出るのではないか。
- 資質・能力に幅広い診療能力が必要となる項目を組み込んでいくことも可能ではないか。
- 疾患群は症候と結びつけて整理してはどうか。その際、日本医師会生涯教育カリキュラムを参照してはどうか。
- 終末期医療や小児に関連する事項等、特定の医療現場の経験が必要となる様な

目標にすべきではないか。

- 方略は各々の研修病院が工夫を凝らして策定するものであるため、評価でなされている様に、方略についても、研修病院のためのツールキット等を用意する、といった方法の提案もあるのではないか。

3. これまでの検討で目標に組み込むべき又は充実させるべきとの議論があった項目の到達目標等への組み込みについて

- 例えば、外来診療に係る項目を充実する場合、「資質・能力」「遂行可能業務」「方略」の概念にどの様に組み込むかについて 等

(遂行可能業務に関するご議論より)

- 遂行可能業務については、例えば、救急外来に来た軽症かつ頻繁に遭遇する症状を呈する患者についての初期対応が単独でできる等、様々な資質・能力が必要となる項目としてはどうか。
- 遂行可能業務を資質・能力と縦軸・横軸の関係とすれば、例えば、外来診療が遂行できるという項目を設定すれば、資質・能力の項目数を減らせるのではないか。

4. 評価について

- 「医師としての基本的価値観」、「資質・能力」、「遂行可能業務」、「方略」の概念を考慮した場合の評価のあり方について 等

- 特に基本的価値観については、評価の工夫が必要ではないか。
- 基本的価値観の部分についても、行動を通す等し、評価は可能ではないか。
- 各項目に対し、マイルストーン的な考え方を取り入れる方向ではないか。
- 終了基準との関係についても、併せて考慮すべきではないか。